

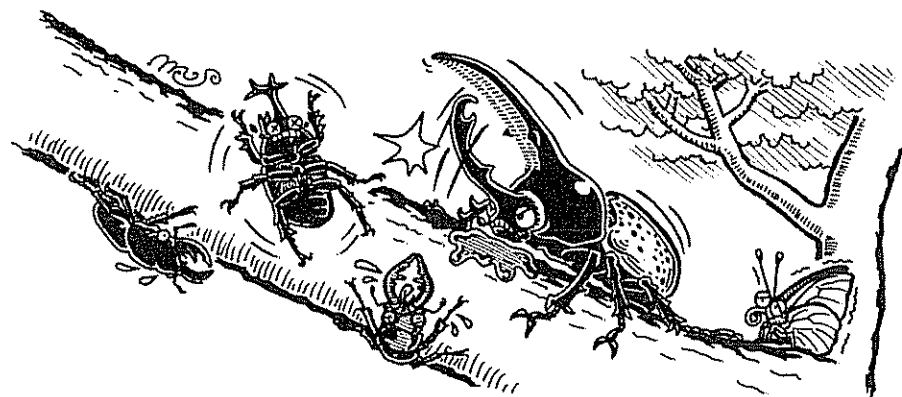
外国の生き物を 野山に放さないで！

～日本の自然を守るために～

1999年11月11日、外国のカブトムシ・クワガタムシの輸入が部分的に解禁となりました。今後、夏を中心にして、ペットショップなどで、比較的安価で盛んに売り出されることが予想されます。手軽に、生きている実物に触れることができるのは喜ばしいことです。

しかし、これが大きな危険をはらんでいることを忘れてはなりません。外国産の虫を飼う人々にモラルの徹底が急がれますが、なかなか追いつかず、すでに関東地方などでは、野外で沖縄やインドネシアのクワガタが見つかっています。

夏が過ぎると、飼っていた虫を「かわいそうだから逃がしてあげよう」と、野外に放す人がいますが、それによって次のような困ったことが起こります。



①餌を占領してしまう

ー競争相手になる可能性ー

もともと日本にいるカブトムシやクワガタムシの、餌を奪ってしまう可能性があります。南国の虫だから寒さに弱いとはかぎりません。夏ならまったく平気です。

②地域差がなくなってしまう

ー遺伝子汚染の可能性ー

例えば、南国（台湾やタイ、ラオスなど）のオオクワガタが日本で放されて、地元のオオクワガタと出会ったとします。産地はちがっても同じ種類ですから、

交尾・産卵は行われます。しかし、たとえ種類が同じでも、地域によって生態が少しずつ違ってきます。日本のものは冬の寒さに耐えることができますが、南国のものと同じ性質があるとはかぎりません。外国ばかりでなく、九州や関西のものでさえ、他の地方に放すことは大きな問題になるのです。

外見にまったく違いがなくても、生き物は、それぞれの土地で環境に合わせて独特の生活をしています。食べ物も、成長する季節も、地方によって違います。それらの習性は、長い年月をかけて身につけてきたもので、遺伝子に組み込まれているものです。人間が勝手に乱してはなりません。

池や川の魚が、ブラックバスのために大きな打撃を受けています。クワガタでも同じ過ちを繰り返さないよう、みんながしっかりとルールを守らなくてはなりません。

いちど飼い始めた虫は

絶対に野外に放さない

ということを守ってください。親切のつもりでも、虫にとっては大迷惑。手遅れになる前に、ちょっと考えてみませんか。みんなの心がけでひとつで、たくさんの日本の虫たちが救われます。

